

梨の花

市川市立稲荷木小学校

〒272-0024 市川市稲荷木1-14-1 Tel. 376-5961
http://www.toukagi-syo.ichikawa-school.ed.jp

我が事として学べば、被害は減らせる

校長 清田 博之

東日本大震災から10年。我が国は、その後もいくつかの大きな災害に見舞われましたが、多くの人々は、すぐにそのことを忘れるようです。物理学者の寺田寅彦氏は、関東大震災の体験から「天災は忘れたころにやってくる」の言葉を残しました。今でも心に留めておかなければならない教訓です。

学校でも、災害に備えて避難訓練や防災教育に余念がありませんが、その教育の効果は、「我が事」（自分事）と捉えているかどうかで決まります。我が事の学びなら、いざというとき、他人事（ひとごと）の学びより遥かに冷静に行動できるでしょう。

東日本大震災の大津波が東北地方沿岸部に甚大な被害を及ぼしたなか、岩手県釜石市内の児童・生徒の多くが無事でした。この事実は『釜石の奇跡』と呼ばれ、大きな反響を呼んでいます。

釜石市では、病気で学校を休んでいた子など5名の児童・生徒の犠牲者が出てしまいましたが、学校に登校していた子たちは一人の犠牲者も出さず、全体で生存率「99.8%」という驚くべきものでした。なかでも、海からわずか500m足らずの近距離に位置しているにもかかわらず、釜石市立釜石東中学校と鶴住居（うのすまい）小学校の児童・生徒、約570名は、地震発生と同時に全員が迅速に避難し、押し寄せる津波から生き延びることができました。積み重ねられてきた防災教育が実を結び、震災発生時に学校にいた児童・生徒全員の命を大津波から守ったのです。

『釜石の奇跡』は、いくつかの教訓を残してくれました。

1 「想定」に捉われるな

- ・大丈夫だろうという安易な発想がいかに危険か

2 常に防災訓練に真剣に取り組む

3 自分で判断・行動できる力を育む

- ・本校では、年度最初の避難訓練以外は、全て非通知（いつ訓練するかを連絡していない）形で訓練を行っています。最近の訓練では、職員にも非通知です。これは、児童が緊急時に「自分で自分の身を守る力」をつけることがねらいだからです。



天災による被害をゼロにすることは難しいですが、被害を減らすことはそれほど難しいことではないのです。

☆ 防災教育の日の取り組み

市川市では3月11日を「市川防災教育の日」として取り組んでいます。各学級で防災に係る授業を実施しました。ここで全体での取り組みを紹介します。

シェイクアウト訓練



田中教育長からのメッセージ

(校長が校内放送で読み上げ)

「地震はいつどこで起きるかわかりません。いざという時、『自分で自分の身を守ることができる』よう考えたり用意をしておきましょう。」

防災給食：塩むすびおにぎり、クラッカー、津波から復興した被災地の「ささかま」、豚汁。10年前の教訓を忘れずにいただきました。



ボランティアに参加した方のお話

東日本大震災で被災した写真を洗浄するボランティアに参加された方（六中の職員）のお話をビデオで視聴しました。下の写真は、津波により瓦礫に埋もれてしまった実家の様子だそうです。



各教室と理科室に大型提示装置が搬入されました

単にテレビが大きくなったというのではなく、タッチパネル機能も付いていて、指でなぞるとペンで絵を描いたり、消しゴム機能で消したりすることができます。学習をより視覚化して「わかりやすい授業づくり」に役立てていきます。

大型提示装置+タッチパネル

